

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【谷田小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	基礎・基本的な知識・技能の定着を引き続き図ることができた。しかし、各教科の領域や内容により定着の差がある。ICTタイムや授業で「ドリルパーク」等を活用し、基礎基本の反復に取り組み、算数では、グラフを読み取ることやデータを二次元の表にまとめる問題に課題がみられた。算数や社会等、グラフや表の読み取りを丁寧に指導していく。また、係活動等を通して、PCでグラフや表を作成する等より身近なものになるように進めていく。	
思考・判断・表現	国語では、目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題に課題がみられる。これは、各教科においても重要な要素である。授業の際には、各教科で話し合う場面を引き続き増やし、自分の考えを整理する時間や相手の伝えたいことを読み取り直す時間の確保を行う。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使いに関する事項」「読むこと」「書くこと」 算数「データの活用」「変化と関係」 <指導上の課題> 個人差が大きいことから個別支援を図る必要がある。振り返りをする時間が確保できていない。	授業中やPT(基礎学力向上のためのパワーアップタイム)の時間に、書き込み式ドリルやドリルパーク等を活用し、一人ひとりの課題に合った学習を通して、基礎・基本的な知識・技能の定着を図る時間を確保する【週に1回】。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有する。【1か月に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」 算数「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きいことから個別支援を図る必要がある。	自分の考えや、文章の要約など、書く機会を増やす【毎時間】。 各教科の授業において、データの活用について、教科書と書き込み式ドリル以外にも身近なことに関してグラフを作ったり補充問題に取り組んだり、問題に取り組む時間を増やす【週に1度】。

＜小6・中3＞(4月～5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	・単元の最後の時間やPT(基礎学力向上のためのパワーアップタイム)の時間に、一人ひとりが自分で取り組む課題を決め、ドリルパーク等を活用した。 ・1人1台端末を活用し、校内研修でデータの活用を通じた個別最適な学びをテーマにし、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を展開し、成果と課題を学校全体で共有することができた。
思考・判断・表現	B	・国語の単元や各教科で話し合う場面を設定し、自分の考えや、文章の要約などを書き、相手に伝える機会を増やした。 ・各教科の授業において、データの活用について、教科書と書き込み式ドリル以外にも係活動等でアンケートを行い、グラフを作りクラスにお知らせする等、日常でもデータに触れる時間を多くした。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使う問題において課題がみられた。情報の扱いに関する事項の情報の整理で、図示などにより語句と語句の関係を表すことを通じて、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめることができることへの理解が不十分であると考えられる。算数では、はかりの目盛りを読む問題に課題がみられる。測定の領域の量の概念の理解が不十分であると考えられる。理科では、身のまわりの金属について電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることへの知識が身に付いているかの問題に課題がみられた。エネルギーの領域についての基礎基本の定着を図る必要がある。	
思考・判断・表現	国語では、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどに必要な情報を見付ける問題に課題がみられた。算数では、分数の加法について共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述する問題に課題がみられた。長文の問題の場合、問題の意図に合わせて解答することが苦手な傾向がある。理科では、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し表現する問題に課題がみられた。実験の目的意識を明確にし、見直しをもって取り組むことの定着を図る必要がある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使いに関する事項に課題がみられた。特に、長い文章が続く際に、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係の理解が不十分である。算数では、変化と関係の領域に課題がみられる。時速から分速を求める問題や比に関する問題に苦手な傾向がある。また、データの活用の領域では、グラフを読み取ることやデータを二次元の表にまとめる問題に課題がみられた。社会では、四方は理解しているが八方位の仕組みを理解していない傾向がある。また、世界における我が国の国土の位置の理解度が低いなど、地理的環境と人々の生活の領域に多くの課題がみられた。理科では、粒子と生命を柱とする2つの領域に課題がみられる。空気や水の循環や水溶液の性質等、実際に目視することはできないため、抽象的に理解している傾向がある。	
思考・判断・表現	国語では、話すこと・聞くこと等の目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題に課題がみられる。話し合い活動につながる根本的な力につながるの、聞き取る力を身につける必要がある。また、算数では、円周を求める問題や適切な図形を選び問題に課題がある。基礎的な問題は解けるが、少しでも複雑な問題になると理解できない傾向にある。社会では、水の循環について表した図を基に、浄水場等の働きについて、既習事項を生かして選択する問題に課題がみられた。社会的現象の特色や相互の関連、意味を考える力を養う必要がある。理科では、生命を柱とする領域で、解剖顕微鏡の使い方などの器具を扱う基礎・基本や、メダカの卵からの成長過程やヘチマの受粉後の成長段階など、実験ではなく観察が主になる内容に苦手な傾向がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の後半の時間やPT(基礎学力向上のためのパワーアップタイム)の時間に、一人ひとりが自分で取り組む課題を決め、ドリルパーク等を活用した。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、校内研修などを通じて成果と課題を共有することができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業の中で自分の考えを発表する際に、文章の要約など、書く機会を増やしたり、授業の振り返りの時間を設定し、自分を見つめ直す時間を確保した。 データの活用について、教科書と書き込み式ドリル以外にも身近なことに関してグラフを作ったり補充問題に取り組んだが、もっと様々なバリエーションの問題に取り組む時間を確保していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)